

デフォレスト先生召天50周年記念行事

2023年は神戸女学院にとって記念すべき年であった。創立の地・神戸山本通から現在のキャンパス・西宮岡田山に移転した1933年からちょうど90年、そしてこのキャンパス移転という大事業を成し遂げた時の院長であったシャーロット・バージス・デフォレスト先生(Miss Charlotte Burgis DeForest, 1879-1973.)の召天50周年の年に当たった。

デフォレスト先生は宣教師2世として日本で生まれ、その生涯を日本の女子教育に捧げた神戸女学院第5代院長、最後の宣教師院長であった。学内には今なおその功績を偲ぶものが残されている。大学事務棟であるデフォレスト記念館は先生を記念して名付けられている。神戸女学院創立125周年記念歌 Beauty Becomes a College は先生がキャンパス移転の際に作られた詩を元になっている。いずれも誰もが目にし、耳にし、口にしたことのあるものである。

2003年に作成された覚書によって関係者一同が会しての仙台での墓前礼拝はこの年の召天30周年が最後と決められ、それ以降はめぐみ会仙台支部の皆様によって墓前礼拝は守られ続けてきた。学院でも礼拝の時間に記念礼拝が行なわれてきた。しかし2023年は召天50周年ということで、学院での記念礼拝に加えて、デフォレスト先生を記念する展示、そして仙台での墓前礼拝と記念会が計画された。

一連の記念行事は学内での図書館本館における記念展示から始まった。神戸女学院創立150周年記念展示Ⅰ「C.B. デフォレスト展—愛と美を求めて—」は2023年5月23日から7月13日、図書館本館閲覧室において開催された。以下にその報告を掲載する。また、この展覧会は、デフォレスト先生の伝記である『C.B. デフォレストの生涯—美と愛の探求』を参考にさせていただいたこともあり、著者である故竹中正夫先生ご令室・竹中百合子様よりご著書にまつわる思い出を寄稿していただいた。